



KAGAWA
SAISEIKAI
HOSPITAL

地
域
に
寄
り
添
う



院長挨拶

Message

香川県済生会病院は、平成16年に高松市桜町から現在の多肥地区に移転してきました。以来、高松市南部地域を基盤とした地域一般病院として、主に急性期医療を提供しています。当院では「患者さまのために、地域のために、そして職員のために存在する病院」という理念のもと、地域に根差し、地域の皆さまが気軽に相談・受診できる身近な病院であり、そして高度で安全な医療を提供できる病院でありたいと職員一同努力を重ねてきました。患者さまの笑顔を大切にし、「人財」の育成に努めるとともに、病気になつた時にはもちろん、病気にならないための健診や健康教室の開催など、コミュニティの中で健康の維持・増進のための活動にも積極的に取り組んでいます。また、今後の高齢化社会向け、急性期医療の提供だけではなく、高齢者の日常の健康を支えていくために、医療と介護の橋渡しをしていくことも必要です。私たちはいつの時代も地域の子どもたちからお年寄りまで様々な医療のニーズに向き合い、頼りにされる病院でありたいと思っています。

院長 若林 久男



理 念

患者さまのために、地域のために、
そして職員のために存在する病院

基本方針

- 1 思いやりを持って患者さまに尽くし、患者さまから信頼される病院となります
- 2 地域に根差し、地域の一員として認知、信頼される病院となります
- 3 高齢者医療、地域医療、がん医療、急性期医療、そして予防医療をリードする病院となります
- 4 常に変革を行い、またその能力を持つ病院となります
- 5 研究心、向上心を持ち、活力にあふれる病院となります
- 6 職員の働く環境の良い病院となります

患者さまの
権利と責務

当院では、患者さまの以下の権利を尊重いたします。

- 1 安全で質の高い医療を公平に受けること
- 2 十分な説明と情報提供を受けること
- 3 説明を受けたのちに、検査や治療方針を選択すること、あるいは拒否すること
- 4 他の医療機関の医師にセカンドオピニオンを求める
- 5 患者さま自身のプライバシー、個人情報について保護されること

また同時に以下の責務を患者さまにお願いいたします。

- 1 患者さま自身の健康に関する情報を正確に提供すること
- 2 医療従事者の説明を理解しようと努め、十分理解できるまで質問をし、納得して医療を受けること
- 3 すべての患者さまが適切な医療を受けられるように、病院の規則を守ること
- 4 受けた医療等に関する医療費は、出来るだけ速やかにお支払いたいただくこと

沿革

明治44年 5月 恩賜財団済生会設立
明治44年 5月 観音寺市に假施薬院発足
大正 3年 2月 活動は内務省から香川県知事に委嘱
昭和 2年 8月 島嶼部の巡回診療開始
昭和 6年 7月 済生会香川県支部発足
昭和18年 4月 高松市桜町に診療所開設
昭和20年 6月 (病床数25床)
昭和20年 11月 病院に昇格
昭和26年 8月 公的医療機関に指定される
昭和27年 5月 社会福祉法人となる
昭和28年 4月 病棟増築(木造平屋建)
昭和28年 7月 (病床数61床)
昭和31年 6月 病棟増改築(木造2階建)
昭和31年 7月 (病床数107床)
昭和37年 10月瀬戸内海巡回診療船「済生丸」診療活動開始

昭和38年 1月 (病床数141床)
昭和38年 4月 本館増改築(管理・診療病棟、鉄筋コンクリート地下1階、地上3階)
昭和46年 3月 本館増築(病棟、鉄筋コンクリート4階)
昭和49年 1月 本館増築(職員宿舎、鉄骨5階)
昭和51年 6月 本館増改築
(管理・診療・病棟、看護師寄宿舎、鉄筋コンクリート地下1階、地上6階)
昭和55年 4月 (病床数170床)
昭和63年 10月 (病床数200床)
平成元年 11月 検査棟、管理棟新築(鉄筋コンクリート4階建)
平成 6年 4月 (病床数198床)
平成11年 7月 本館5階改修、人工透析室拡充
平成11年 12月 訪問看護ステーションなでしこ開設
平成12年 2月 指定居宅介護支援事業所なでしこ開設
平成16年 4月 高松市多肥上町に新病院移転
(病床数198床)(鉄筋コンクリート地下1階、地上7階建)

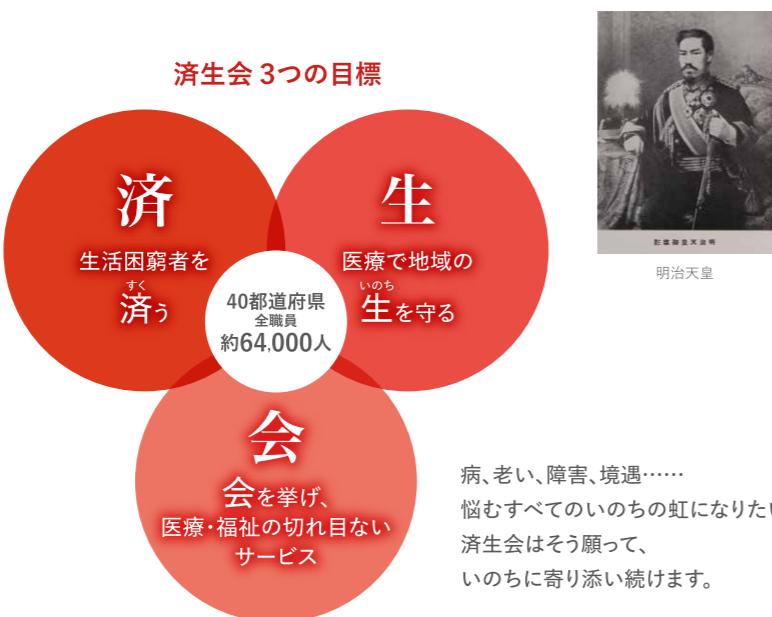
(敷地面積9,148.47平方メートル、延床面積12,726.40平方メートル)
院内保育施設(定員30人)及び職員宿舎(7室)整備
(敷地面積532.43平方メートル、延床面積460.00平方メートル)
平成17年 10月 特別養護老人ホームなでしこ香川(ユニット型)開設
(定員:特養50人、ショート10人、デイサービス30人)
(鉄筋コンクリート4階建)
(敷地面積8,992.58平方メートル、延床面積4,658.78平方メートル)
平成19年 1月 香川医療福祉センター設置
平成26年 12月 職員駐車場整備(敷地面積2,444平方メートル、84台分)
平成27年 12月 病院機能評価認定
平成30年 5月 入退院支援センター開設
令和元年 6月 地域包括ケア病棟開設
令和 3年 12月 病院機能評価認定更新
令和 5年 5月 職員駐車場整備(敷地面積1,592平方メートル、64台分)

済生会とは

明治44年2月11日、明治天皇は、時の内閣総理大臣・桂太郎を御前に召され、「生活苦で医療を受けることができずに困っている人たちを施薬救療(無償で治療すること)によって救おう」と「済生勅語」を発し、お手元金150万円を下賜されました。

桂総理は、この御下賜金をもって財団法人を組織し、これに全国各界の有志の寄付金を加えて運営することとし、明治44年5月30日^{恩賜}済生会を創立しました。初代総裁に伏見宮貞愛親王殿下を推戴し、会長には桂総理が就任しました。

済生会は、医療に恵まれないすべての人々に手を差し伸べるという創立の精神にのっとり、各地で時代の要請に応える幅広い事業を展開している。施設数も年々増加しており、無料低額診療事業をはじめ、人々が安心して生活できるよう保健・医療・福祉を連携させたきめ細かなサービスの提供を推進しています。



なでしこ紋章の由来

ふしみのみやだななる
初代総裁・伏見宮貞愛親王殿下は、明治45年、済生会の事業の精神を、野に咲く撫子（なでしこ）に託して歌をお詠みになりました。



霧にふす 末野の小草 いかにぞと
あさ夕かかる わがこころかな

—野の果てで、露に打たれしおれるナデシコのように、生活に困窮し、社会の片隅で病んで伏している人はいないだろうか、いつも気にかかってしかたがない—

この歌にちなんで、いつの世にもその趣旨を忘れないようにと、撫子の花葉に露をあしらったものを、大正1年以来、済生会の紋章としています。

フロアガイド

7F 大ホール
6F 療養病棟
5F 地域包括ケア病棟
4F 一般病棟
3F 一般病棟
2F リハビリテーション室、透析室、健診室、手術室
1F 総合受付、外来部門、検査部門、薬局、売店、救急外来
B1 RI検査室、医療機器安全管理室



救急医療

Emergency Medical Care



1秒でも速く
救うべき人がいる

救急医療のあり方

当院では地域の救急医療を支えていくことを最も重要な果たすべき役割の一つとして考えています。急な病気や事故は昼夜を問わず、誰にでも起こります。いざという時に役に立たない病院では、地域の皆さまの信頼を得ることはできません。もちろん、24時間体制で救急の現場を支える職員たちの負担は、大変なことがあります。しかし、本当に困った時、地域の皆さまを支え、笑顔になっていただくことができたら、職員たちも無上の喜びと誇りを感じるのではないでしょうか。医療の高度化が進む中、専門性や重要度によっては、より高次救急や専門性の高い治療を提供できる病院に搬送させていただくこともあります。しかし、私たちはこれからも全力で必要な救急医療を提供し、地域の皆さまが安心して暮らせるよう、救急医療を支えていこうと思っています。

院長 若林 久男



チ ー ム 医 療

Team Medical Care



より良い医療を提供するために、
連携し患者さまをサポートする

医療安全管理室

患者さま、医療従事者にとって安全・安心な病院であるために、各部門の専任担当者が組織横断的に安全管理活動を実施しています。インシデント報告から現状把握・分析を行い、安全な医療の提供に向けてシステム環境の整備や職員の意識向上に向けた安全教育、患者相談窓口と連携し患者さまの意見から安全対策の見直しを行っています。

感染対策室

患者さま、ご家族、医療従事者などを感染から守るために、医師・看護師・臨床検査技師・薬剤師などがチームとして活動することで、医療関連感染低減を目指しています。安全で安心な療養環境を提供していくために、職員の一人一人の「実践」が目標です。



栄養サポートチーム (NST)

入院患者さまの栄養管理に関する評価をチームで行い、疾病治療における合併症の予防や医療の質の向上を図り、質の高い医療を提供しています。構成メンバーは医師、看護師、薬剤師、言語聴覚士、歯科衛生士、臨床検査技師、栄養士、社会福祉士です。毎週定例のカンファレンスと院内回診を行い、より効果的な栄養管理を行っています。

じょくそう 褥瘡対策チーム

一般に「床ずれ」と呼ばれる褥瘡の予防や褥瘡のある患者さまのケアを行っています。専任の医師と看護師のほか、栄養士や理学療法士等と連携し、月1回「褥瘡対策委員会」を開催しています。また、定期的な褥瘡ラウンドにより、処置方法やポジショニングを見直し、意見交換を行いながら、早期治癒を目指しています。



地域連携室

地域の先生方と連携を図り、スムーズな診療を行うための連絡窓口として活動しています。連携登録医制度を設置し、治療が終了し症状が安定した患者さまに、連携先の医療機関に情報提供や紹介を行っています。療養上の相談や医療費・社会福祉制度等様々なご相談にも応じさせていただいています。

当院では経済的理由により必要な医療を受けることが困難な方に対して、無料または低額な料金で治療を受けられる無料低額診療制度があります。お気軽にご相談ください。

入退院支援センター

入院が決まった患者さまに対し、入退院に関するご説明や退院後の療養環境まで、様々な問題を把握し、必要なサポートを早期に提供することで、安心して治療に専念できるよう支援します。

これから入院される患者さまには、まず手続等に関するご説明と患者相談を行い、患者さまの身体的・心理的・社会的状態などのヒアリングを行います。その後、必要に応じて、医療従事者がそれぞれの分野で、早期に適切な医療が受けられるよう支援します。また、退院後を見据えたサポートも同時に開始し、退院してからも患者さまが安心して「自分らしい生活」が送れるようフォローいたします。介護保険の調整やかかりつけ医との連携を行い、退院への不安を少しでも緩和できるサポートします。また、転院が必要な場合は、患者さまやご家族のご意向を疑いながら、望ましい選択ができるよう支援いたします。



一般病棟(3~4階病棟)

急性期一般病棟は2病棟あり、外科・整形外科・泌尿器科・眼科の手術予定の患者さまを受け入れる病棟と、内視鏡検査を行う消化器内科や高齢者の肺炎、小児科の患者さまを受け入れる病棟があります。手術・検査はクリティカルパスを用いて計画的な治療・看護を提供しており、入院時より退院後の生活を見据えた支援を行い、多職種と協働、幅広い看護を提供しています。



地域包括ケア病棟(5階病棟)

病状が安定した患者さまに対し、ご自宅や介護施設へ退院できるよう支援させていただく病棟です。他にも、在宅療養されている方のレスパイト入院や自動車事故機構(NASVA)が認定する方の短期入院も受け入れています。患者さまやご家族の要望に寄り添い支援できるよう、地域や関連する施設との連携を大切にしています。

療養病棟(6階病棟)

急性期治療を終え、病状が安定している方で引き続き医療的なケアや病院での療養が必要な慢性疾患の患者さまが対象となる病棟です。厚生労働省が作成した病態・処置の状態ランク(医療区分)と介護を要する状態ランク(ADL区分)からなる患者分類に従って患者さまが入院されています。スタッフは、患者さまやその家族に寄り添えるチーム医療を目指し、多職種で協働しています。

職種紹介

Diverse Occupations Hospitals



医師

医師法の適用を受けて患者の容態・問診・検査データなどから病名と病状を確定する診断と、投薬や手術などにより病状を改善させる治療が医師の仕事です。一般的に「内科医」と「外科医」に大別されますが、更に各種医学会の認定を受けた専門医が分野（診療科）ごとに分かれて診療を行うことがほとんどです。近年は女性医師も増加しており、若い医師の3名に1人が女性と言われています。



臨床検査技師

生化学検査科と生理検査科に所属しています。生化学検査科では検尿・血液検査・輸血業務を実施し、細菌検査・病理検査は外部委託しています。生理検査科は腹部・心臓など超音波検査を主に実施しています。当直勤務では他職種と連携し患者受入れを実施しています。認定資格の取得や研修会へ参加し、知識と技術の向上を図っています。

看護師

当院で看護師が活躍している場は、病棟や外来だけでなく手術室や透析室、内視鏡室などといった高度な専門的知識を必要とする部署もあり、多様な情勢の変化にも対応できるように日々自己研鑽に努めています。また、患者さまと医療スタッフとのコミュニケーションを円滑にし、患者さまを取り巻く方々の相談や指導なども積極的に行ってています。



視能訓練士

当院では、乳児から高齢者までの幅広い年齢層の複雑な視機能を検査したり、斜視により発達が滞ってしまった視機能を回復するためのトレーニングも行っています。また、様々な検査により、遠視、近視、乱視、白内障、緑内障等の眼の異常を把握や評価し、医師が診察を行うためのデータを提供しています。



看護補助者

当院の看護補助者の中には、介護福祉士の資格を有する者も在籍しており、病棟業務では生活環境に関する業務や日常生活に関する業務、診療に関わる周辺業務なども行っています。手術室や内視鏡室では、検査や処置に使用する医療器材の洗浄・消毒も行っています。また、定期的に研修や看護補助者会を行い、チームの一員として看護職と協働して、安全な看護が提供できるよう努めています。



診療放射線技師

放射線（X線）を使用して、一般撮影・透視検査・CT・IVR・RI検査を行ったり、磁力を利用してMRI検査を行ったりと、様々な診断画像の作成に携わっています。また、医療放射線の安全管理も重要な業務となっており、安全で質の高い検査を心掛けるとともに、より少ない被ばく線量で、より診断能の高い画像が得られるよう、日々研鑽しています。

薬剤師

各病棟に入院中の患者さまや外来患者さまに対し、薬剤の調剤や服薬指導、抗がん剤や無菌調製の調剤を行っています。また、持参薬鑑別や手術前中止薬の有無の確認など患者さまが安全に治療を受けられるように業務を行っています。



管理栄養士

給食管理と栄養管理の業務があり、管理栄養士は主に栄養管理を行います。入院患者さまの栄養スクリーニングを行い、入院診療計画書を基に栄養計画書を作成し、病棟訪問を行い、一人一人に合わせた栄養管理や入院・外来における個人栄養指導を実施しています。また、チーム医療の一員として、他職種と連携して栄養管理を実施しています。



職種紹介

Diverse Occupations Hospitals



臨床工学技士

透析・医療機器・内視鏡・手術部門で構成されています。主な業務は生命維持管理装置を安全使用するための日常点検や年間計画に基づいた定期点検を行います。また透析シャントへの穿刺、透析液の水質管理・人工呼吸器の使用ラウンド・ペースメーカー・チェックなど業務は多岐に渡ります。内視鏡室では業務支援、手術室では腹腔鏡下手術でのカメラの保持業務を行っています。



歯科衛生士

病院の歯科衛生士は街の歯科クリニックとは違い、入院患者さまの口腔内疾患の予防、口腔衛生の向上を図ることで誤嚥性肺炎の予防を目的とした口腔ケアをしています。また、全身麻酔で手術を予定されている患者さまの術前・術後口腔機能管理のため、口腔内に歯石や動搖歯がある場合は歯科医院との連携を行っています。

理学療法士

当院では、主に整形外科疾患、特にUKA・TKAやACL断裂等の患者さまが多く、術後早期からリハビリを行っています。スポーツ受傷の患者さまに対しては、競技復帰までサポートします。また、活動性が低下した患者さまに対し、離床を促し、機能訓練を実施することで、自宅退院を目指します。



医療ソーシャルワーカー(MSW)

保険医療機関における福祉の専門職であり、当院では社会福祉士の資格を有した者が対応しています。患者さまとご家族が抱える様々な問題について相談に乗り、社会福祉の立場から経済的・心理的・社会的问题の解決、調整を行い、患者さまが安心して療養できるように支援しています。



作業療法士

当院では、主に上肢の疾患の方に対し、術後早期から介入し、退院後の外来通院まで対応しています。また、下肢の疾患や、廃用の疾患の方に対し、ADLを中心に退院に向けて評価・訓練を実施しています。

さらに、手部の疾患に対するスプリント作成や、作業活動を用いた生活技能・趣味活動・スポーツ復帰など心身機能の向上を目標にサポートしています。



医師事務作業補助者

医師の事務的な業務をサポートする職種です。当院では、医師の指示のもと診断書の文書作成や電子カルテの入力を行っています。医師の負担を軽減とともに、診断書等書類の早期作成や診察の待ち時間短縮などにより、診療業務が円滑に行えるよう努めています。

言語聴覚士

嚥下障害、高次脳機能障害（失語症、注意障害、空間無視等）、構音障害の患者さまに対しリハビリを行っています。当院では、嚥下障害の患者さまの割合が多いです。評価を行い、看護師や栄養士と連携し、状態に応じたりハビリや食事形態の検討や食事姿勢の指導等を行っています。



事務員

病院の顔である総合受付や診療費収入などを扱う医事担当、人々の健康を支える健診・ドック担当に加え、職員の給与・福利厚生や病院広報を扱う総務担当、決算・資金管理を扱う経理担当、材料調達を扱う用度担当、施設・設備管理担当など、各部門が病院全体の運営をサポートとともに、職員が働きやすい環境を整える業務を担っています。



人材育成

Human Resource Development



職員は組織の宝物
「人財」である

研修医

当院は、香川大学卒後臨床研修センターおよび川崎医科大学臨床教育研修センターの協力型臨床研修病院です。臨床教育センター長を含む臨床指導医や上級医のもと、初期臨床研修医から後期研修医（専攻医）の指導にあたっています。小回りの利く病院ですから①各科の垣根がなく相談しやすい②各分野間のコミュニケーションが非常に良く、チーム医療が充実③生活に便利な立地環境とオフタイムの充実④豊富な症例に裏打ちされた手技の習得、common diseaseと急性期医療によるバランスの良いholistic診療⑤アカデミックの充実（学会発表時は出張費を全額支給、医学雑誌投稿への指導）などが特徴です。

看護部

「済生会の基本理念「施薬救療」の精神のもと、看護職として品性をもち、地域の一員として、患者さまから信頼される質の高い看護を提供します」の理念のもと、常に患者さまの立場に立ち、思いやりをもって、患者さまから信頼される看護を目指しています。令和6年4月現在、認定看護師5名、特定看護師2名が専門領域の看護師として活躍しています。

働きやすい職場環境

職員宿舎 (女子単身者用)

遠方からの入職者や通勤者の負担軽減を目的に職員宿舎を設置しています。病院北側に隣接しており、利用料も安価に設定しています。

院内保育所 (なでしこ保育所)

子育て中の職員のために、院内保育所を設置しています。運動会やクリスマス会、保育参観などイベントも充実しています。

福利厚生

- 済生会グループ保険
- 企業型確定拠出年金
- 済生会退職金共済
- 特別休暇（リフレッシュ、結婚、忌引等）
- 財形
- 昼食費補助

へき地医療

Remote Medical Care



海をわたる病院

瀬戸内海には、700余りの島が点在しています。そんな島々を済生丸は「海をわたる病院」として、岡山・広島・愛媛・香川の四県の医療機関と協力し、最善の治療が受けられるよう速やかな対応をし、島民が安心して暮らせるよう医療奉仕に努めています。

現在は、四代目となる「済生丸100」が運航中です。医療機器も充実し、島民が安全に診療を受けられるように船内の通路を車いすが通れるように広くし、エレベーターを設置するなどバリアフリー化を図り、中規模病院の機能を備えています。

災害救援活動、地域医療研修

「済生丸100」は、今後想定される南海トラフ地震等の際には、救援活動を担うことも視野に入れており、平時は検診、診療活動を続けながら万一の場合に備えています。

また、医学生や看護学生などの研修の場の提供など地域医療を担うスタッフの育成にも協力しています。



地域活動

Community Work



済生会フェア

「済生会」をより多くの地域の方々に知っていただくため、地域活動の一環として病院となでしこ香川が協働して開催しています。職員が企画した手術体験・内視鏡体験・薬剤師体験・健康測定・キッズコーナーなど多種多様なイベントを通して、地域の方々に病院について知っていただける機会となっています。

平成29年から年1回開催しており、毎年1,000人を超える来場をいただいています。



生活困窮者支援事業 なでしこプラン

当院では、社会福祉制度の対象とならない人など、刑務所出所者、障がい者、高齢者、在留外国人等で、医療・福祉サービスにアクセスできない人たちを対象に巡回検診、健康相談、フードバンク事業等を行っています。

また、地域の皆様との交流と、医療・健康への关心を持ていただくことと目的に、出前講座（出張健康教室）を行っています。





社会福祉法人 恩賜財團 済生会支部
香川県済生会病院

名 称	社会福祉法人 恩賜財團 済生会支部 香川県済生会病院
管 理 者	院長 若林 久男
病 床 数	198床(一般病棟98床、地域包括ケア病棟50床、療養病棟50床)
標榜診療科	内科 / 消化器内科 / 循環器内科 / 内視鏡内科 / 糖尿病内科 / 内分泌・代謝内科 / 肝臓内科 / 膵臓・胆のう内科 / 腎臓内科 / 人工透析内科 / 膠原病・リウマチ内科 / 脳神経内科 / 外科 / 消化器外科 / 内視鏡外科 / 整形外科 / 小児科 / 皮膚科 / 眼科 / 麻酔科 / リハビリテーション科 / 放射線科
受 付 時 間	月～金曜日 8:30～11:30 13:30～16:00
休 診 日	土曜日、日曜日、祝日、年末年始

アクセス

バスを利用

- ことでん川島線
「香川県済生会病院・高松桜井高校前」バス停下車 徒歩約1分

電車を利用

- ことでん琴平線「太田駅」より タクシーで約5分

マイカーを利用

- 高松空港より 車で約30分
- JR高松駅より 車で約30分
- 高松自動車道高松中央ICより 車で約5分



〒761-8076 香川県高松市多肥上町1331-1

TEL.087-868-1551 FAX.087-868-9733

<https://www.saiseikai-kagawa.jp>

